

平成30年度

施政方針



平成30年度の町政の方向を決める町議会3月定例会議は3月2日から13日まで行われました。会議初日となる2日、鈴木重男町長がまちづくりの重要施策について次のとおり施政方針を述べました。

葛巻町の目指すべき将来像

未来を協創する 高原文化のまち

平成29年度は、国民健康保険葛巻病院のほか江刈小学校の新改築、養護老人ホーム葛巻の移転新築など町民の健康や暮らし、学びを支え続けてきた中核施設が完成し、町に新たな歴史が刻まれた年でありました。

また、町の持つ多面的な機能と資源を最大限に活用したまちづくりと現在進めている地方創生、少子高齢化対策、人口減少対策など、優良でユニークな取り組みの実践が高く評価された地方自治法施行70周年記念式典での総務大臣表彰の受賞は、町や町民にとって、とても栄誉なことでありました。

さらには、各種団体・個人などにおいても全国レベルでの活躍で高い評価をいただいたところであり、町民の皆さまの常日頃からのたゆまぬご努力に敬意を表するものであります。

こうした中、町の最重要課題であり、全国の地方が取り組んでいる「人口減少対策」において、本町では昨年11月

末には約2年ぶりに前月比がプラスに転じ、年間を通じた人口動態では県内で4番目に低い減少率となるなど、これまでの取り組みの成果が少しずつ数値に見られ実感できるまでになってきております。

今後、さらに一歩前進するため、これまでの取り組みを振り返り磨きをかけるとともに、さらなる成果・実績を積み上げるための新たな取り組みにも果敢に挑戦し、課題解決への努力を続けてまいります。

平成30年度は、町の行財政運営の基本であります町総合計画・前期基本計画の3年目でありました。

全国的に「地方創生」への取り組みが進む中、基本構想に掲げる「未来を協創する高原文化のまち」の実現に向けて各種施策をさらに進展させ、町の魅力をより一層高めるのはもちろんのこと効果的な情報発信や新たな取り組みなどにより山村のモデルとして交流人口や移住・定住人口の増加を目指してまいります。

まちづくりの 基本目標

これまで先人が築きあげてきた大切な財産と意志を受け継ぎ、町民一人ひとりがまちづくりの主役として自助・共助・公助の精神で幸せを実感できるまちを創造し、夢と誇りを持ち住み続けたいと思えるまちづくりに取り組みます。

また、次の4つの姿勢と3つの視点により諸施策を着実に進めます。

【4つの姿勢】

- ▽新たな発想
- ▽資源の探求
- ▽自立への挑戦
- ▽協働から協創へ

【3つの視点】

- ▽こころの通い合いを大切に
- ▽あしもの宝を磨き輝かせる
- ▽未来に向かって果敢に挑戦する

地域資源を活かす グリーン

町が持つ魅力や資源を最大限に生かし、酪農や林業の基幹産業をはじめとし、IT産業や再生可能エネルギーなど、新たに取り組んできた分野を含めた地域産業の高付加価値化とブランド化をより一層推進します。

- 平成30年度は
- ▽草地畜産基盤整備事業
- ▽畜産クラスター協議会運営費補助金
- ▽グリーンテージ本館改修工事

- ▽くずまき型DMO事業
- ▽移住定住コーディネーターの導入
- などに取り組み、山村の持つ力・魅力をより輝かせ、新規就農や起業家支援、6次産業化などにより若者の雇用創出を図り、交流人口の拡大と移住・定住を促進し、活力とにぎわいのあるまちを目指します。

いきいきと輝き続ける こども

次代を担う子どもたちがさまざまな経験を通して、将来への夢を思い描ける機会の創出に努め、町の魅力や地域の良さが次の世代に確実に継承されるよう、新しい時代に適応した教育の充実を図ります。

- 平成30年度は
- ▽山村留学寄宿舎整備事業
- ▽葛巻高校制服購入費助成
- ▽公営学習塾運営事業
- ▽健康管理システム導入事業
- ▽くずまきほっとライン運営支援事業

などに取り組み、少子高齢化が進む中で子どもから高齢者まで、すべての町民がこころ豊かで共に支え合う思いやりのある地域社会の確立を進めます。

誰もが住みたくなる まち

町が持つ自然、空間、ゆとりを大切にしながら、町民がこころ安らぐ快適な生活を送ることができるよう、住環境の整備を推進するとともに、安全・安心を実感できる生活基盤の充実を図ります。

- 平成30年度は
- ▽町道茶屋場田子線整備事業
- ▽町道葛巻浦子内線整備事業
- ▽定住促進住宅整備事業
- ▽地区公民館整備事業
- ▽庁舎建設事業

などに取り組み、町民一人ひとりが主役となり、住み続けたいと思えるまちづくりに努めます。

